シリーズ

元気です 54

地域で守り伝える伝統

覚寺麒麟獅子舞保存会
中 **青木　斉** さん
Hitoshi Aoki

青少年育成中ノ郷地区会議
左 **浅井　由紀** さん
Yuki Asai

覚寺麒麟獅子舞保存会
右 **西村　伸一** さん
Shinichi Nishimura

中ノ郷ふるさとくらぶ

学校活動から公民館活動へ

中ノ郷小学校では、10年ほど前からクラブ活動の一環として地域に古くから伝わる麒麟獅子舞を子どもたちに教えていた。それが2年前に学校を離れ、公民館活動になったのを機に「中ノ郷ふるさとくらぶ」が結成された。地域の活動になったということで、卒業しても踊りを続けることができるようになり、活動の幅が広がった。現在、小学校4年生から中学校2年生までの約30人が、「覚寺麒麟獅子舞保存会」のメンバーである青木さんらの厳しい指導のもと、地域の伝統文化の継承者として頑張っている。

目標だった東京の舞台

小・中学生が地域の伝統芸能を披露し競い合う場として、毎年東京で開催され今年8回目となる「全国こども民俗芸能大会」がある。これに出演できる団体は全国でわずか7団体。中ノ郷ふるさとくらぶは、昨年おしくも次点だったものの、今年、見事選出され、7月30日、日本青年館大ホールで中国・四国ブロック代表として、「麒麟獅子舞」と「さいとりさし」を披露した。

県内の団体が選出されたのは彼らが初めて。出演が決まった時の気持ちを青木さんは「この大会は芸能の甲子園みたいなもの。子どもたちには『いっぺん東京に連れて行ったる！』と約束していたので、とてもうれしかった」と話す。同じく指導者である西村さんは、大きな舞台を経験した感想を「全国のレベルは高い。自分たちも演技の終わりには最高の拍手がもらえるよう頑張らないといけない。地域の宝である子どもたちに我々大人がいかに伝統を伝え、残していくか。今の子どもたちに足りないと言われているモラルを取り戻すことにもなると思う」と厳しい指導者の顔で話す。裏方の一切を仕切っている浅井さんは「出演団体はいずれも地域と一緒になったすばらしい活動をしている。小・中学生を高校生や大人がバックアップする仕組みがきちんと出来ている」と、公民館職員としてコミュニティの重要性を語る。

これまでも大きな舞台を経